

光の子

発行／社会福祉法人 光の子どもの家
 編集／光の子 編集委員会
 〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277
 TEL／0480-72-3883
 振替／東京3-128022
 印刷／(株)ドモン企画

わたしのゆめ



ばらぐみ かつら もえぎ

この聖句は大変に興味深いものであるが、私はこれをテキストとして説教をしたことがない。私の尊敬する牧師のひとり故武藤健先生の説教集の中に、ここをテキストとした説教が収録されている。

それは教会学校仙台大会のときの開会説教である。いつ稔るともしない、しかいつかは結実するだろう幼少年への伝道にはげむことをすすめられたものである。

パンを福音と解された極めて明快な説教である。

ところが註解書によると、このところはいろいろの解釈がある。

海洋貿易に言及している。またエジプトの草原に種をまくことのすすめである。さらに狭量な心でなく寛大であれとの教え。報いのないと思われるところにも、よい業をせよとのすすめであるなど。

古来、伝統的な解釈は慈善行為の勧めのようである。

パンを水の上に投げよ、後になつて見い出すという。しかし、この二つの句には合理的な繋がりがない。後になつて必ず捨てるような必然性はない。捨てるかもしれないという蓋然性も確率ははなはだ低いものである。

イエスの教えにはこの種のものが多い。理性的な合理性は無視されている。パンを投げるという行為は投機的なものではなく、なべて慈善の行為である。

パンを水の上に投げるという慈善の行為は、見いだすという報酬を目的としているわけではない。

この行為の原因と結果は順序を変えるものではない。つまり投げるという行為があくまで原因であり主目的であって、その結果見出されかもしれない。ギブ・アンド・テイクの形で行為がすす

水の上にパンを投げよ (伝道の書十一章一節)

理事長 福島 勲

知恵の書である伝道の書が、一見知恵知識に反する教えをしていくように思われる。

と本氣で思っててしまうほどだ。
保母、になるための勉強をした
きたわけでもなく、保母になりた
い、と思ったこともなかつた。た
だ中学の先生になりたいと思つた
ことはある。その子の置かれててい
る環境などは全く無視しているか
のように、子どもだけが悪者扱い
をされている非行問題が我慢なら
なかつた。そこらへんの大人より
は子どもの気持ちが分かると思つ
た。そして「光の子どもの家」と
いう養護施設で保母を募集してい
る事を知る。一人っ子の私は弟妹

私の想傷を絶する親子関係 生活環境に置かれている子どもたちたくさん経験があつた方がより豊かな生き方につながると思う。それも辛い経験の方が。しかし、誰も自分が傷つく事を望んではしないだろう。心の中では訓練を必要だと思いながらも、できれば避けて通りたいものである。螺（カスミ）
ワ そうとすれば簡単に通り抜けれる道があるこの世の中で、ここ的孩子たちが困難な道を歩んでいる。

誰よりも深い哀しみや苦しさを知
っているのだから。施設にいたこ
とをマイナスだけに終わらせたら
余りにも寂しい。“プラス”にし
なければ……！

私が出来る事として、これからも「光の子どもの家」と、この子どもたちと関わり続ける長いつきあいを続けるうちに、子どもたちも成長し、私を一個人として見る日が来るだろう。そしてそれまでの関わりの何かを受け入れ、何かを拒むだろう。或いは全てを拒まれるかもしれない。それはその子が決める。欠点たけの私が、つきあう中で一つでも多く出来なかつた多くのことがらの、役に立てれば。。。ここにいくつもないにでもしたい。。。と願う

GET COVER

館山理司

えるヘリコプターのはねの音・・
そして子どもの声がばんやりとし
た青い空間に響きわたる。夢と希
望と挫折が渦巻いた都会も嫌いで
はないが、こんなのがんびりした風
景もやはりいいな、と思う。何も
かも忘れて子どもの頃に帰りたい
設名も――学園などが多い事
継続的な人間関係が少ない事、人
間関係の濃淡が出来にくく事等の
養護施設が孕む問題性――いわゆ
るホスピタリズムなどについて、
その時の私は知らなかつた。

ない、と思い、ありのままの自分でいようと思った。それをみんなが受け入れてくれた。。。

1988年3月1日 第17号

な関係性とそれをめぐる色々な用語が交差する場面となっている。いわば親と子と保育園という三角関係のヘキシミヘキシミが発現していく。機会であり、良かれ悪かれ園の姿勢・価値観と親のそれ等とがぶつかり合う生きしい場でもある。それは云つても毎日のよう烈しいやりとりがあつたりケンカ腰でとういう訳ではないが、逆に毎日のよううにニコニコ顔で「いつてらっしゃい」とはいかないという事で、気のせいかヘアレ交だな」と思つような場面が増えてきているようでもあるし、その少し違ひの中に現在の「家族」や親子が置かれて、いる様々な関係が垣間見えてくる。

と送迎とともに父親の場合が増えるが、それより男（男）と母（女）の間でかなり話し合わないと表現しないようだ。中には機械的に半分づつ分担する例もある。

父母ともに民間企業に勤めていて、通勤時間等もほぼ同じ程度という場合でも、その多くは母親のみの送迎となる。それらの場合だと父親の帰宅時間が相違るのが普通だ。母親たちはその時、止むを得ずじぶんが分担していると感じている事が多く、父親も当然の事として、早く帰って子育てに関わるべきだとは、あまり思っていない。だから時には自分も運転まで仲間と飲み歩いたりもした

(家計が苦しいから仕方なく共稼ぎをするを選ぶ場合等)にせよ互いに勵んでいることを了解し合っている場合は子育てを共に任すという話題がないといふ場合もある。夫が会社の中で肩身が狭いとかいうことがあるらしい等、外面上の都合や、母親が子育てに専従しなくては子どもが可哀そう、うまく育たないといった不安感を強く持つ夫(父親)という場合だ。先にも云ったが決して少くはない。

こんな時、母親は全く孤立状態で、子どもの調子で休み等が多いから、会社でも人一倍働き、家に

中ゴロゴロと寝ていた例等は、そんなツケのひとつだし、その子の氣惹きを掻げ返すどんな術も私たちにはない。

そんな中で、子が母がそして父が孤立を深め、傷つきあう。家事の手抜きを禁じた夫にとって保育園とは何なのだろうか？そんなものがあるから母親が働く気になってしまうといったもののなのだろうか？もっとも、そんな的はずれの不満には責任を負いかねるけれど。。。いずれにしても、子にとっても母にとっても支え合う手が乏しすぎる事だけは確かだ。支え合いい育ち合える開かれた家族が、親子が問われているのだろう。。

街角からの風のたより

No. 6

いのに、女にかけられた食事が拒む。けられるのはおかしいと、私たち園にグチを云つてみたりする事も多い。保育者はその時何と答えるだらうか？父親にも母親にも

娘には夫が仕事柄に出ないといふに人一倍母親業も頑張るという。

これまで三六名の子どもが入所し、七名が家庭に帰っていった。

一才に満たない子どもから一〇才までが光の子どもの家の家にやってきて、いま一才の三名が一番上の年令になっている。この年令の子どもたちが先ず学習しなければならないことは、どんなことがあつたとしても、決して断ち切られることなどない人との関係なのである。一番弱い者が一番よい条件で育てられる。生まれる前は母体そのものが、生まれるとあらゆる

それは、まさにかけがえのない者として暮らし合うことなのである。病気になつて何の役にも立たなくなつたからお母さんは要らないとは云わない。家族は居るだけでいいのである。誰にも代わることなどできない、どんなものとも取り替えることなどできないのが親子を中心とした家族関係である。このかけがえのない関係に代わるうといふ矛盾に満ちた動きによって、身のほどを知らずに、一途になつて、三年間とりくんできた。

春、保母が一人病氣で退職した。四年目の春を迎え館山理司が退職する。家庭ののつびきならない事情なので慰留にも限界があった。光の子どもの家の草創期を共に勞苦し、礎を創った仲間の一人がまた欠ける。大きな損失であり寂しさも一人である。

「展開していく」と明瞭に館山を指して、関わる家族関係などの極めて薄いこの子どもに、新たに親戚のように関わってくれるよう提案したのである。これを快諾した館山との新しいとりくみによって、退職という養護施設の限界を超えるかは分からぬ。かけがえのない者として関わらうとして途半ばに、辞めていく者の責めを共に担い続けることになる。館山が辞めることの責任は繋ちやんには全くないのである。

辞める

菅原
哲男

菅原 哲男

詳める

養護施設光の子どもの家は、世界中の人々から羨ましがられるほど、物には不自由しない豊かなこの国で、親と一緒に暮らすことさえできない子どもたちが、かけがえのない人との関係を経験し、創りあげていくために建てられた。

三年前、光の子どもの家で、情熱に満ちた12人が、困難を極める状況のなかで、養護施設開設の準備を始めた。

衝撃、刺激から譲られ、成長のための備えがなされる。母親と子どもはそのなかで人間関係の原形を創っていく。その家族とのそれぞれの関係が、この原形を応用して展開されるのである。愛されると、譲られ、期待され、望まれることなどが、生活の中に疑いようもなく満ち溢れている。そんな状況がここにやってきた年令の子どもたちの育つべき条件なのである。

壁をサンドペーパーで磨き上げ、家具を選んで買い求め、内部研修を重ねて準備した。子どもたちを受け入れ、共に暮らし、夜を日に繰りで養育にうち込んできた。

居続ける事が養護施設の基本的な責務と言い続けてきて、避けられない退職がある。家族に退職はなじまない。

家庭養護促進協会の岩崎三枝子氏は「里親には退職がない」と私たちに云う。養護施設の限界の一つである。

初めての二三人のうち、二年目の

させるのを避けたいからである。
同じ家の岩崎まり子に、時間を
かけて、ゆっくりと担当を移行し
てきた。館山と子どもたちとの関
係もゆるやかなものに変えてきた。
今も、同じ家で暮らしながら退職
準備の最終段階を迎えている。

二月初めから来年度の個人別養
護計画を職員会議で協議している
岩崎が作った燐ちゃんの個人別
養護計画案の、家族関係欄には、
「父や姉や、深く関わってくれた
人との関係を、燐がより豊かに成
長するための資源として継続し、

1988年3月1日 第17号

寒風吹き抜ける中、昨日のお昼食として野外料理に挑戦。けむさと炎の熱さとに格闘しつゝ、けんちゃん汁を作りました。主力を担つたのは、一番値段の高いお肉は鳥肉だと信じていた二年生の麻子ちゃんなど、外でラーメン作ろうよと主張した四年生の晁子ちゃん。材料を思ううかべることさえ一苦労でしたが、計画、買い出し、調理まで本当によくやりました。幼稚園以下のチビちゃんたちも「おとなしく見ていてくれるのが一番のお手伝い」とのこちらの思いをよそに、おむすび作りや、突然貰い物のリストに加えられたさつまいもで、焼き芋の準備をしました。

「讃ちゃんすごい」と誉められ、笑顔がはち切れそうになりました。お姉さんの翊ちゃんは、こんなにやくで、全部ちぎりました。豆粒のようないいね。

三軒分できたね。こんなにいっぱい！明日の分もあさっての分もできたよ、と言っていた大鍋一杯のけんちん汁も、いつもの三倍分のおにぎりもきれいに無くなり、仕上げは焼き芋。厳しい寒さだったけどお腹も心も大満足のひとときでした。「お父さんにも食べさせたいね」翊ちゃん、大きくなづきました。

先日姉妹を連れて、お父さんの家へ行きました。片道二時間半。姉妹の心の中のお父さんへの想いをお父さんの心の中に姉妹の想いを、その絆を確かめ合いました。

あなたの代わりである私たちには、子どものかけがえのない関係をめざしながら、その上で何よりも必要な親子の絆——子どもたちの支え——がよりよく、強く結びつけられるよう願っています。

子どもを△担当する▽ということは、その家族の方々、教育、関係機関の方々、地域、支援して下さる方々と出会うことにつながります。その中で教えられ、励まされ、喜び、そしてその一方、悩むこともあります。暖かい光だけ、自分たちにあてて、子どもに届かず、冷たすぎる風をさえぎることができないならば、私たちがここにいる意味はありません。その重さが、ずつしりと迫ってくることは、やっと光の子どもの家が本来の仕事を始めたしるしでしょう。

もし私が赤ちゃんの立場だったら、あんな笑顔で向き合えるだらう



ひかりのこ

育
つ

六〇

竹花信惠

五ヶ月前、この家やってきた日、お父さんと別れて泣くことができなかつたことが、泣き叫ぶことよりどれほど寂しい心であるかを感じさせられました。お父さんやお母さんの「代わり」である私たちも子どもとのかけがえのない関係をめざしながら、その上で何よりも必要な親子の絆——子どもたちの支え——がよりよく、強く結びつけられるよう願っています。

子どもを「担当する」ということは、その家族の方々、教育、関係機関の方々、地域、支援して下さる方々と出会うことにつながります。その中で教えられ、励まされ、喜び、そしてその一方、悩むこともたくさんあります。暖かい光だけ、自分たちにあてて、子どもに届かず、冷たすぎる風をさえることは、やっと光の子どもの家その重さが、ずつしりと迫ってくらあんな笑顔で向き合えるだらうよ。

もし私が「ちゃんの立場だったとしても届かないならば、私たちがここにいる意味はありません。そのことは、やっと光の子どもの家が本来の仕事を始めたしるしでしょう。

打ちっ放しのコンクリートの内壁をサンドペーパーで磨き上げ、家具を選んで買い求め、内部研修を重ねて準備した。子どもたちを受け入れ、共に暮らし、夜を日に繼いで養育にうち込んできた。

居続ける事が養護施設の基本的な責務と言い続けてきて、避けられない退職がある。家族に退職はなじまない。

家庭養護施設協会の岩崎三枝子氏は「里親には退職がない」と私たちに云う。養護施設の限界の一つである。

初めの一二人のうち、二年目の春、保母が一人病気で退職した。四年目の春を迎えた館山理可が退職する。家庭のつぶきならない事情なので慰留にも限界があった。光の子どもの家の草創期と共に労苦し、礎を創った仲間の一人がまた欠ける。大きな損失であり寂しさも一人である。

館山理可が所属する仙道家の子どもたちとの関わりに、昨年十月から変化をつけて退職の準備をした。保母助手として彼女が担当した三才の燐ちゃんと、引き裂くよ

うに別れさせ、小さな心に血を流させるのを避けたいからである。

同じ家の岩崎まり子に、時間をかけて、ゆっくりと担当を移行してきた。館山と子どもたちとの関係もゆるやかなものに変ってきた。今も、同じ家で暮らしながら退職準備の最終段階を迎えていた。

二月初めから来年度の個人別養護計画を職員会議で協議している。岩崎が作った燐ちゃんの個人別養護計画案の、家族関係欄には、「父や姉や、深く関わってくれた人との関係を、燐がより豊かに成長するための資源として継続し、展開していく」と、明らかに館山を指して、関わる家族関係などの極めて薄いこの子どもに、新たに親戚のように関わってくれるよう提案したのである。これを快諾した館山との新しいとりくみによって、退職という養護施設の限界を超えるかは分からない。かけがえのない者として関わるうらしくて、途半ばに、辞めていく者の責めを共に担い続けることにはなる。

館山が辞めることの責任は燐ちゃんには全くないのだから。

日誌抄

一九八七年十二月
十六日～一九八八年一月十五日

二月一六日 この頃から年末の慰問、ご寄付などのご支援が、地元の方々をはじめ、全国の人々から連日のように届く。今年は、これまでの間のご支援が目減りしていく、年度の事業をとりやめて、法人が負担を予定している人件費の確保に全力を挙げなければならない状態でした。

が、一月いっぱいで人件費が確保の見通しになり、職員とともに安堵の胸をなでました。一人ひとりの方々の「芳名を記して感謝申し上げるべきところですが、紙面や整理の都合などもあり、皆様にはお礼のお手紙を差し上げてそれに代えさせていた

だきました。
心から感謝。

二〇日 第四アドベントを礼拝を

捧げてまもる。花園町の井上氏
ベンキ塗りのご奉仕。ダイニン
グの壁がきれいになり明るくな
りました。ありがとうございました。

地域の子ども会のクリスマス。

二四日 クリスマス・イブ。いつ

も子どもたち職員の病気や健

康管理でお世話になっている鷺の宮町の高橋医院の院長先生ご夫妻がお出でになつてお励ましをいただく。感謝。

・キャンドル・サービスのイブ礼拝には、暖かい贈り物でこの冬をつつんで下さる向後氏などが一緒に参加してくださる。夜更けて田中郁夫が扮するサンタクロースが眠りにおちた子どもたちにステキなプレゼントを。

二五日 クリスマス・アドベントの期間に練習したペーパージュント(聖誕劇)をステキな礼拝として献け、大利根剣友会の先生方や地元の人々と一緒に祝い。

二八日 もちつき。東地区婦人会から四名が来訪して例年のご援助をいただく。心から感謝。

師走の街を夜昼なく走り回り家庭訪問して調整をした結果、二二名の子どもたちがお正月帰省を。この日から実施の子どもも。

一九日 いつも熱烈ご支援の加須市の中井東京家政大学教授が今月二度目の来訪して激励。感謝。

三一日 お家に残った子どもたち

一一名と楽しく年越し。お支えとお励ましに感謝しながら。

一九八八年元旦。初日の出を利根大橋で。元旦礼拝と年始の挨拶を全職員と家にいる子どもで。

新年を祝いこの年の幸を祈る。一日～三日は、家にいる子どもが担当者と一緒に買い物に出かけたり、担当保母の実家に連れて

行ってもらつたり。。。

四日 お正月氣分をぶつとばし、

三学期もがんばろう会を、人形劇の新巻さんたちも一緒に。

七日 東地区婦人会より二名来訪三学期へ向けた登校班対抗理事長杯争奪スポーツ大会を町立体育館で。第七班が第一回優勝。

一五日 子どもと保育研究会例会。

一七日 大利根町バレーボール大会に石毛、館山が参加して奮闘。

三〇日 加須市のボランティアグループ「しづくの会」來訪。

二月五日 約一年経過した個人別収益計画の反省を、来年度の計画作成のために、この日から。

八日 H子(三才)入所。仙道家

反射光

冷たい雨に身を縮めた翌日は汗ばむような三寒四温が

確実に季節の色を深めています☆一七号の発行が遅れ、お詫び致します☆子どもの名前が難しい、読み難いなどのお便りを頂きました☆福祉が権利と言われて久しいが、施設を利用する事は誇らしくはないのです。就職や結婚等のときに、そのことが大きな障害になる場合があります。以前、施設の子たちの文集に載った文章の名によって生い立ちを暴かれ、結婚に失敗した話を聞きました。以来、活字になる子どもの名前は例外なしに仮名にしております。

簡明な読みの字に改めますが、現実に△差別△があることを、報告しなければなりません。哀しい思いで仮名を記す度に、差別する仕組みや人々に憤りを覚えます。この仕事が宿命的に孕む差別の問題は避けられません。どこに実名で表記しても、全く不利益のなぐなる日まで、不利益を恐れず解決のために闘います☆どうか更なるご支援を!心から願います。(哲)